



WOOD & MULTIFUEL CLEANBURN STOVE

Installation and Operating Instructions

取扱説明書

ASPECT 5

仕様表

	ASPECT 5(アスペクト 5)
	ウッド燃料タイプ
本体寸法	W494mm × D364mm × H899mm
本体重量	104kg(ログボックスを含む)
本体材質	鋼板・鋳鉄
最大出力	7kw(6,020kcal/h)
最少出力	4kw(3,440kcal/h)
燃焼方式	Tripleburn®
燃焼効率	79.1% (木質燃料使用時)
CO排出量	0.17% (酸素13%時)
排気温度	277°C
排ガス質量流	4.2g/s
準拠規格	Defra Approved
薪最大長	350mm
煙突口元径	5in φ 127mm
煙突方向	上部
オプション	マルチコンバージョンキット 外気導入アダプター リヤヒートシールド

はじめに

この度は、パークレイストーブをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

この取扱説明書では「ASPECT 5-アスペクト 5」に関する使用方法とご使用上の注意事項が記載されています。パークレイストーブの機能を十分に発揮させる為、またお客様に安全にご使用いただく為にもご使用前に良くお読み下さい。尚、本取扱説明書は大切に保管下さいようお願い申し上げます。

目次

はじめに	1
目 次	1
安全上のご注意	2~3
各部名称とパーツの取り外し方	4~5
ご使用の説明	6
日常のメンテナンス	7
部品表	8~9

安全上のご注意

お客様、及び他の人への危害や損害を防ぐ為に、安全上のご注意をよくお読みになり正しくお使い頂きますようお願い申し上げます。



警告 警告事項を厳守しないと死亡や重症に至る重大な事故へとつながる危険があります



注意 注意事項を厳守しないと怪我、または製品に損傷を与える危険があります



警告

< ! >パークレイストーブの設置及び煙突取付には法令、及び各都道府県や市町村自治体の条例が制定されています。設置にはこの事を十分に理解した上で行ってください。

< ! >ガソリン、灯油、アルコール、ビニール、プラスチック、ゴム、発砲スチロール、化学塗料、合成接着剤を使用した木材、防腐材を使用した木材は絶対に燃やさないで下さい。またパークレイストーブを焼却炉として使用しないで下さい。有毒ガスを発生させる原因になり、本体及び煙突を損傷させる恐れがあります。

< ! >ストーブ燃焼中に本体の周辺にはガソリン、灯油、アルコール、スプレー缶等の引火の危険があるものは絶対に置かないで下さい。火災及び爆発の原因となる恐れがあります。

< ! >ストーブ燃焼中に本体及び煙突周辺には引火性のある製紙類、衣類などの可燃物は置かないで下さい。火災の原因となる恐れがあります。

< ! >ストーブ本体及び煙突の改造は絶対にしないで下さい。火災などの恐れがあります。また本体及び煙突の性能を損なう危険がございます。

< ! >ストーブを燃焼させる際は換気口より十分な給気を行ってください。室内の空気が不足し、酸欠状態になる危険があります。また煙や炎が室内へ戻る恐れがあります。

< ! >燃焼中にドアのガラスにヒビや破損が生じた場合は直ちに使用を中止し、修理が完了するまでご使用にならないで下さい。

< ! >灰は必ず完全に鎮火してから不燃性の容器に入れ、フタをして可燃物のない場所に保管し、各市町村の指示に従って廃棄して下さい。(灰の完全鎮火には長時間を要します)

< ! >本体及び煙突のメンテナンスはご使用者様の安全を守るためにも1年に1回以上の清掃及び点検を行ってください。



注意

＜！＞燃焼中及び鎮火後、しばらくはストーブ本体及び煙突が高温になっています。火傷の原因になりますので素手で直接触れないようにしてください。

＜！＞ストーブのご使用中にエアー調整(給気口)、薪の投入などで本体に接触する場合は必ず保護手袋をご利用下さい。火傷の原因となります。尚、本体の高温時にビニール系及びナイロン系の防護具を使用すると素材が溶け本体に付着する場合があります。

＜！＞本ストーブは輻射式暖房です。輻射熱を皮膚に長時間あてますと低温火傷の危険があります。特に乳児やお年寄り、身体の不自由な方が近くにいるときは十分に気を付けてご利用下さい。

＜！＞燃料の超過投入、燃焼空気の過剰導入はストーブ本体及び煙突が超高温になる事があります。超高温な状態は本体及び煙突への破損や劣化を早める場合があります。また超高温で使用する事で思わぬ火災を招く危険があります。

＜！＞薪燃料をご利用される場合は含水量20%未満まで乾燥させたものをご利用下さい。含水量が多いことで燃焼温度が上がり、煤やタールを多く発生させる原因になります。また煤やタールが煙突内に付着し、煙道火災につながる恐れがあります。

＜！＞薪ストーブご利用シーズン前に必ず煙突内及びトップに排煙の妨げになるようなもの(鳥の巣、枝、落ち葉等)がない事を確認してからご利用下さい。そのまま使用すると火災の危険があります。

＜！＞灰の除去は完全に鎮火し、本体及び灰が冷めている事を確認してから行ってください。火傷の原因になります。

＜！＞耐熱ガラスの清掃は本体が完全に冷めている状態の時に行ってください。火傷やガラスの破損の原因になります。

＜！＞ガスケット等の交換は本体が完全に冷めている状態の時に行ってください。火傷や不具合が生じる原因になります。

＜！＞燃焼時に薪を追加する際は必ず空気調整を全開にしてから扉を開けてください。
給気が少ない状態時に扉を開けると大量給気により炎が飛び出す危険があります。(バックドラフト)

＜！＞ログボックス内に薪を入れる場合は、熱がこもらないよう、ログボックスの上部を2cm以上は空けてご使用ください。

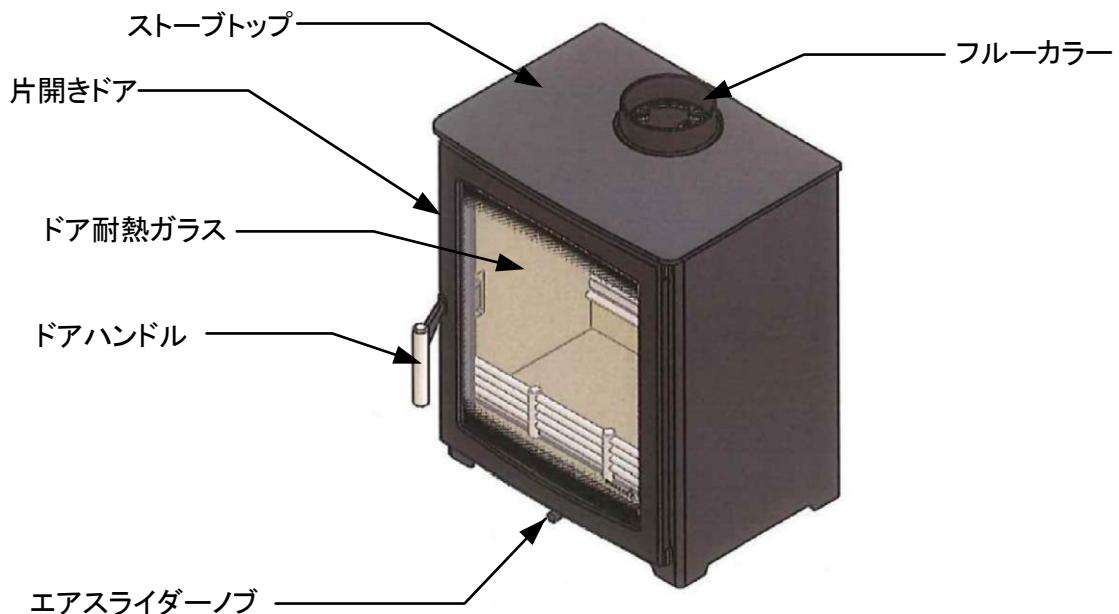
大きな地震が発生した場合は揺れがおさまるまで慌てずに、ご自身の安全を守ることに努めてください。揺れがおさまりましたら、本体の燃焼室で燃えている燃料に乾いた大量の砂を被せて下さい。給気を失うことで炎は鎮火に進みます。尚、燃焼中に水などをかける事で本体を破損させるだけでなく、大きな災害につながる恐れがあります。

使用の再開については弊社または販売店へご相談下さい。

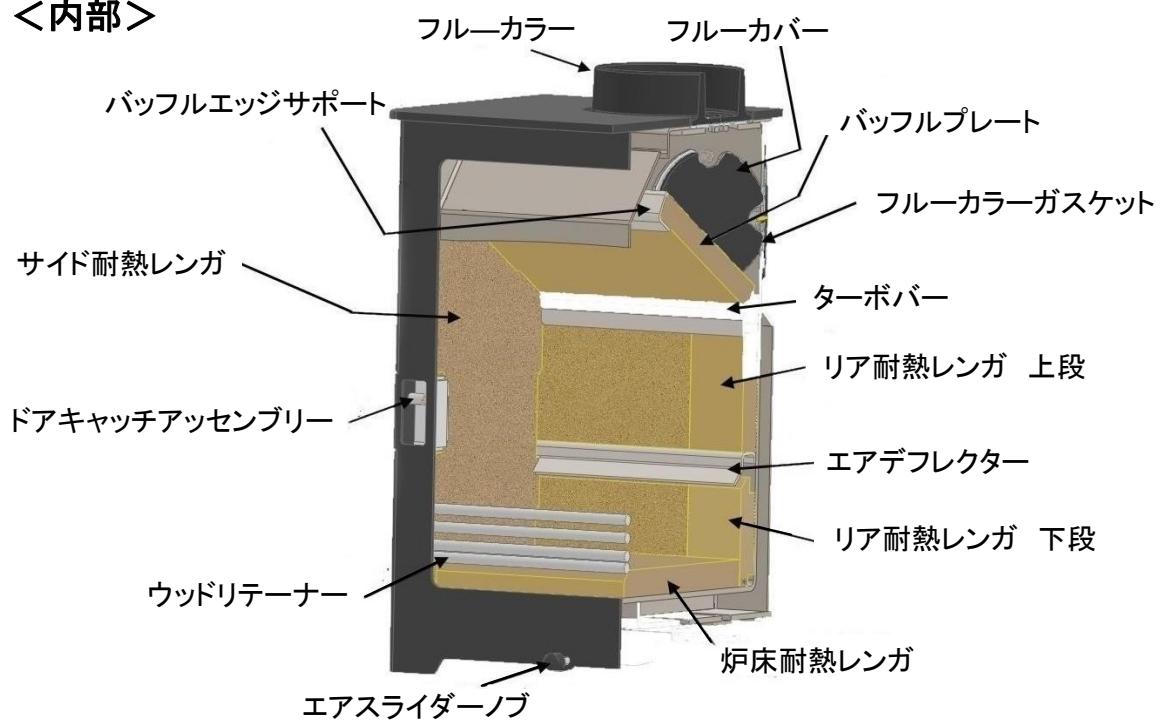
＜＜ハンターストーブグループ日本総輸入元＞＞
株式会社 エイコーテレシス
0493-22-7250

各部名称

＜外部＞



＜内部＞



バーツの取り外し方

①ウッドリティナーを取り外す



- (A)右側を上へ持ち上げる
(B)ストーブ本体から取り外す

②炉床耐熱レンガを取り外す



- (A)手前両側をリア耐熱レンガ側に立てるように、持ち上げる



- (B)立てた状態のまま、片側を手前に引き、斜めにする
(C)ストーブ本体から取り外す

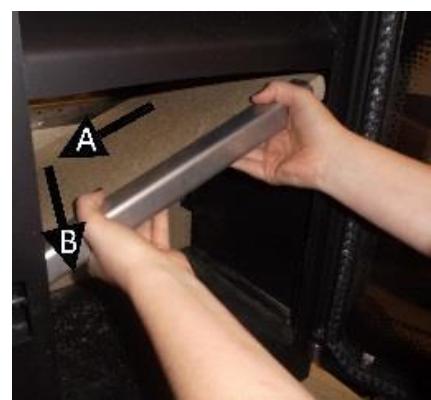
③サイド耐熱レンガを取り外す



- (A)バッフルプレートを持ち上げる
(B)サイド耐熱レンガの手前を内側に引く
(C)エアデフレクターに当たらないように、手前に引く
(D)レンガの下部を内側に引き、斜めの状態でストーブから取り外す
(E)④の後、もう片方のレンガも同様に取り外す



④バッフルプレートを取り外す



- (A)片側を押し上げ、もう片方を下へ下げる
(B)斜めの状態で、ストーブから取り外す

⑤背面の耐熱レンガを取り外す



- (A)上段の耐熱レンガの端を持ち、取り外す
(B)下段の耐熱レンガ下部を手前に引きながら、取り外す
※取り外せない場合は、ターボバーとエアデフレクターのネジを緩めると、取り外せるようになります。

ご使用の説明

＜薪燃料使用時の着火から通常運転までの手順＞

空気調整ロッドを全開位置にする(止まるまで手前に引く)

良く乾燥した焚き付け用薪に着火剤等で着火する

焚き付け用薪の全体に火が廻ったら更に太めの薪を追加する。
(ターボバーよりも高い位置に薪が来ないようにする)

全体に火力が強くなったら空気調整ロッドを押し込み、空気の量を調整する。※必ず防護手袋を使用して下さい

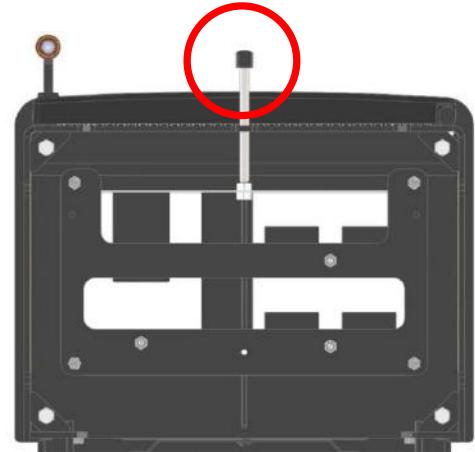
必要に応じて順次、薪を追加します。

快適な室内温度に達する頃になり、火力を抑えたい場合は
空気調整ロッドを押し込んで、徐々に空気の量を絞っていきます
※十分な熾火が出来るまで全閉しない事が上手に焚くポイント！

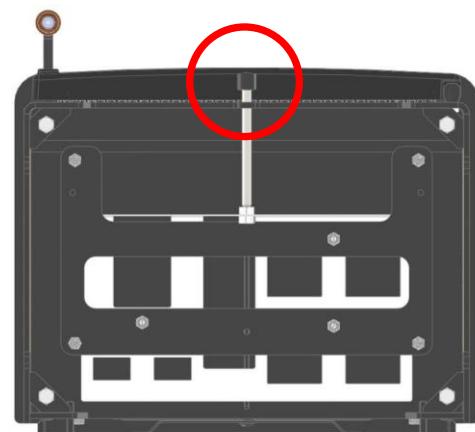
熾火が少ない状態で薪を追加する際は空気調整ロッドを全開にして下さい。

完全に鎮火してしまった状態から着火する場合は手順の最初からやり直してください。

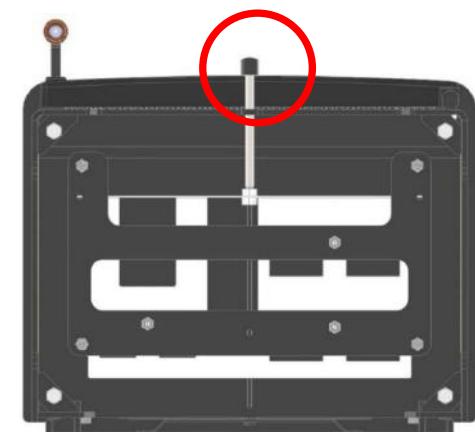
※最初の運転から、2~3回は低い温度での慣らし運転を行ってください。



全開位置(ストーブ下からの図)



全閉位置



空気量調整中

日常のメンテナンスについて

●本体について●

日常メンテナンスでは、良く絞った布でホコリなどを拭きとて下さい。また薪ストーブ本体には錆を防ぐ耐熱塗料が施されています。使用頻度により剥離する場合があります。そのような場合は専用の耐熱タッチアップ塗料で補修して下さい。尚、塗料には有毒なガスが含まれていますので良く換気をして行ってください。
※完全に鎮火した状態の時に行ってください。

●錆(さび)について●

鉄製の薪ストーブは設置環境により錆が発生する場合があります。錆が発生した場合はサンドペーパー等で錆を落とし、専用の耐熱塗料でタッチアップして下さい。尚、シーズンオフ中の燃焼室内の錆がひどく目立つ場合はオリーブオイル等を塗っておくと錆を防ぐことが出来ます。

●耐熱ガラスについて●

べっ甲色に付いた煤は、ストーブを一定時間高温にする事で白色化し、本体が冷却している時に柔らかい布で簡単に拭き取れます。急いで落としたいときは本体を一度冷却し、専用のガラスクリーナーと柔らかい布で拭き落として下さい。高温時には火傷の原因、ガラスの破損の危険性があるので絶対にやらないで下さい。

●灰について●

マルチ燃料モデルではアッシュパンに溜まった灰を定期的に除去して下さい。
除去作業では薪ストーブ本体が完全に冷却され、完全に鎮火してから行って下さい。

●バッフルについて●

良く乾燥された薪を利用し、給気も適量にご利用頂いた場合はシーズン中はそのままお使い下さい。
水分の多い薪を利用したり、給気を絞り過ぎた状態で使用した際に燃焼室の温度が上がらず、大量の煤が付着する事があります。そのような場合はバッフルを取り外し、ブラシなどで煤を落として下さい。
バッフルに煤が付着している場合は煙突内も同様に煤が付着している場合がほとんどですので、同時に煙突内の清掃も行うようにして下さい。

●耐熱レンガについて●

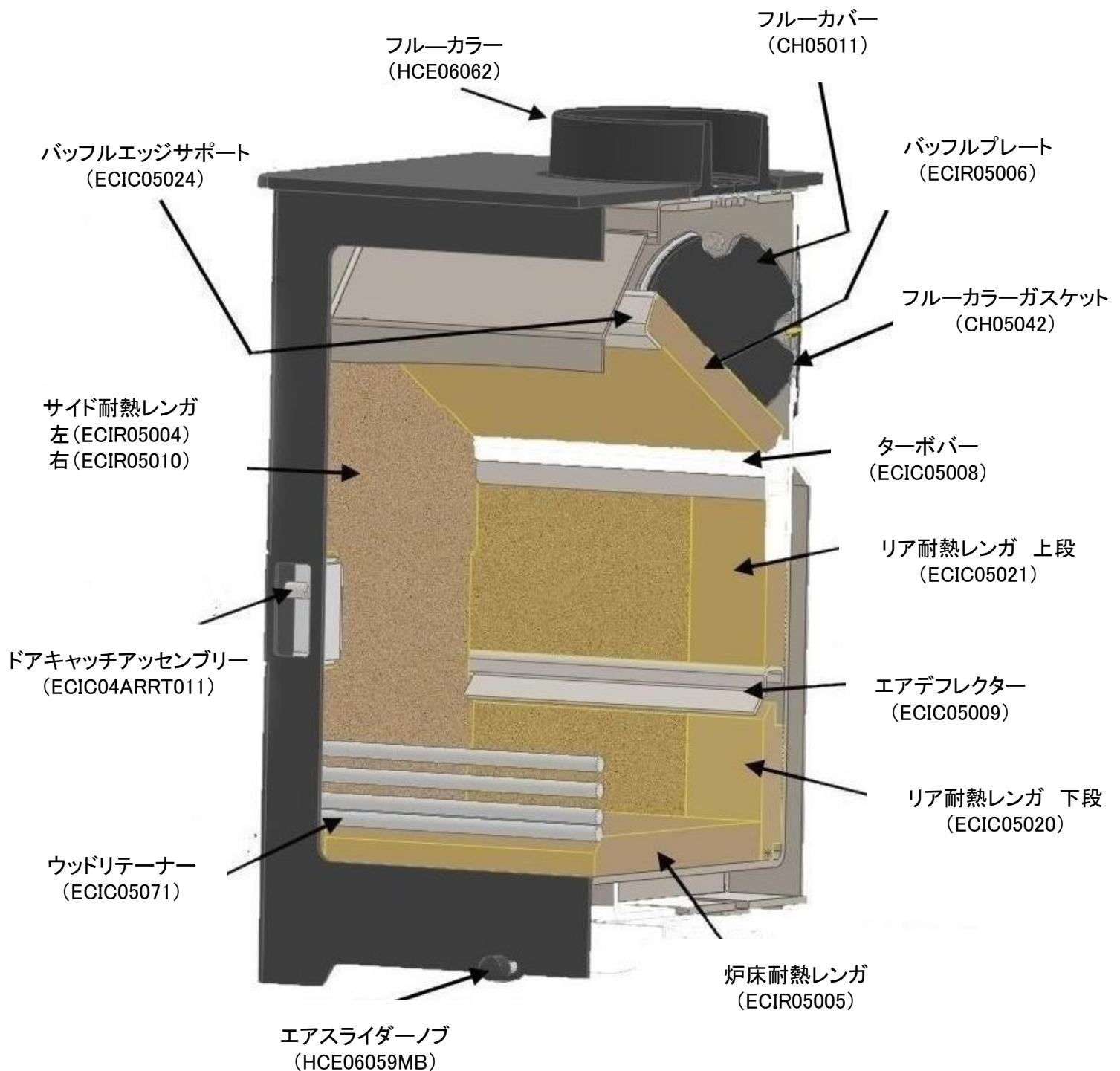
バッフルと同じく、水分の多い薪を利用し、給気も絞り気味でご使用された場合に耐熱レンガが黒褐色になる場合があります。一度、高温で焚くことで煤は全て燃えてしまいます。大量に煤が付着しているようなら本体から外し、柔らかいブラシで落として下さい。尚、耐熱レンガは衝撃に弱く、落としたり、突起物を当てる事で破損します。取扱いには十分に気を付けて下さい。

●煙突について●

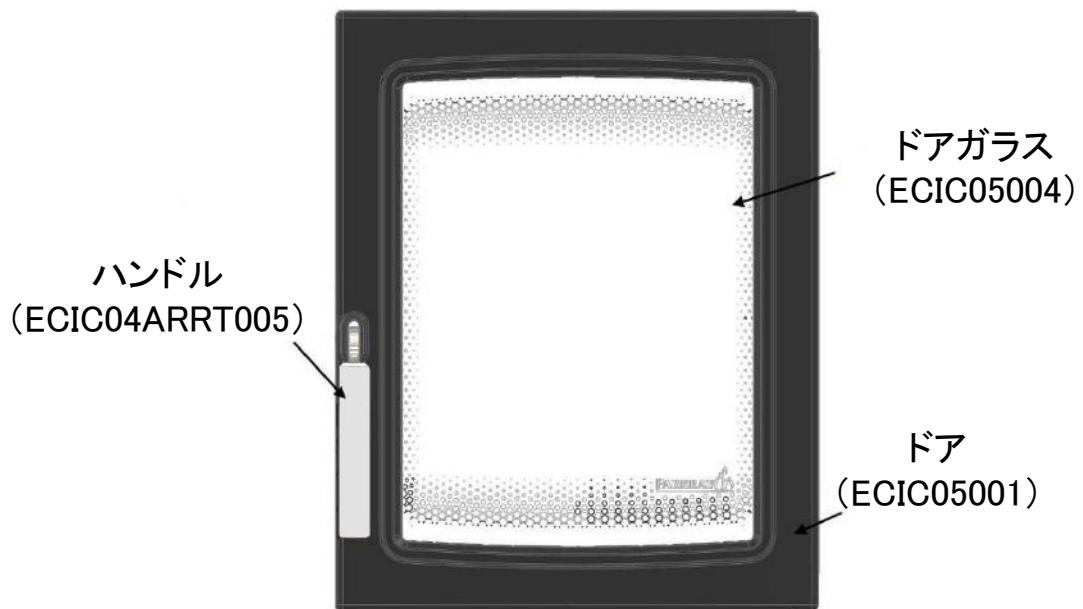
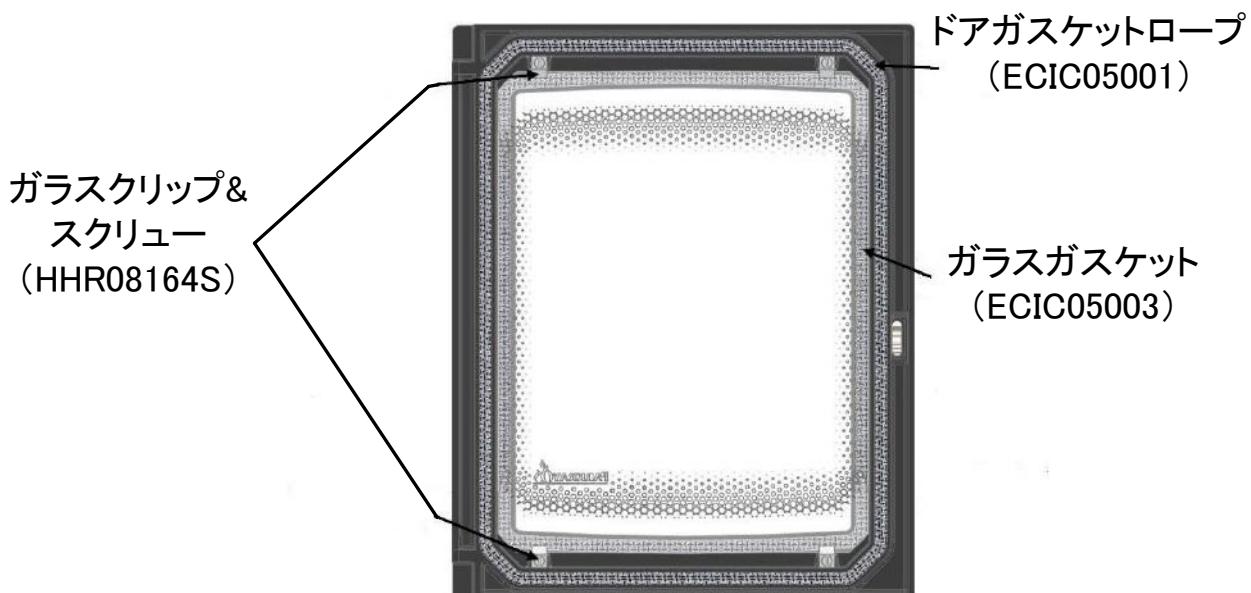
水分の多い薪を利用し、給気も絞り気味でご使用された場合に煙突に大量の煤やタールが付着する場合があります。このままでのご利用は煙道火災の原因ともなりますので、煙突内の清掃を行って下さい。
特に煤及びタールは冷却される事で凝固する性質があります。従って、煙突のトップ及び鳥の侵入を防ぐ防鳥網に多くついていることが多いです。尚、高所での作業となりますので安全対策をしっかりと行って作業をして下さい。高所に不安がある方は専門店に依頼する事をお勧めします。

部品表

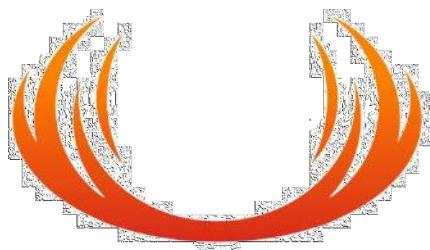
ASPECT 5



ドアコンポーネント



※スペアパーツの交換は必ずハンターストーブ純正部品をお使い下さい。
純正部品以外でのご利用で本体に破損が生じた場合、一切の責任は負いかねます。
詳しくは弊社または販売店にお問合せ下さい。



hunterstoves

GROUP

ハンターストーブグループ 日本総輸入元
株式会社エイコーテレシス

〒355-0073 埼玉県東松山市上野本1871-3

TEL 0493-22-7250 FAX 0493-22-7277

E-MAIL: info@hunterstoves.jp

<http://hunterstoves.jp>